

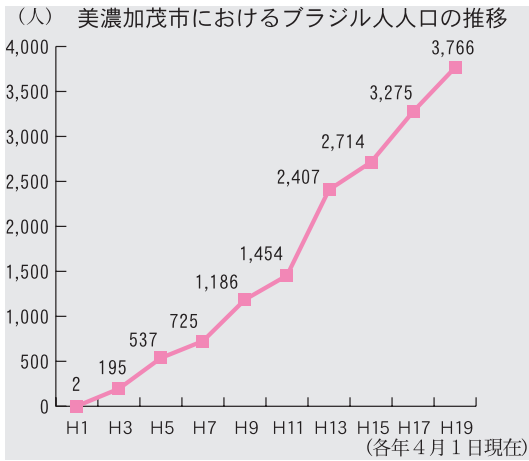
■美濃加茂市の現状

美濃加茂市の人口は54,528人。そのうち外国人登録者数は5,646人で、総人口に占める割合は10・35%になります。全国の市の中で10%を超えているのは美濃加茂市だけです。その中で、ブラジル人が3,788人（外国人登録者数の67・1%）と圧倒的に多いです。（平成19年5月1日現在）

■外国人が増えた理由

20年ほど前からブラジルに住む日系人（過去に日本から海外へ移住した者の子孫）が日本に来て働く流れが始まりました。それは日本の製造業や関連企業などが、多くの労働力を求めていたからです。

こういった日本の状況において、日系人急増に大きく拍車をかけたのが平成2年の入管法（※改正です。それまで製造業などの生産ラインで働く（単純労働）目的で入国することは認められていませんでしたが、この改正により、日系人に発給されるビザに限っては就労制限がなく、単純労働もできるようなったため、市内の工場でも多くの日系人が働くようになりました。



■さまざまな課題

日本で暮らす外国人市民が、言葉や文化・習慣の違いに不自由を感じることもなく、自立した生活を送ることができれば、多くの課題が解決できるのではないのでしょうか。

例えば、日本ではごみを分別して出せば資源としてリサイクルできます。しかしそれを知らないのと、一つの袋に金属もペットボトルも燃えるごみも、一緒に混ぜて捨ててしまいます。

なぜごみを分けることが必要なのか、その理由や情報を知らないばかりにごみを分けずに出して迷惑な行為をしてしまったり、誤解を招いたりすることが多くあります。

みんながルールを守り気持ちよく生活できるように、正確な情報を確実に届ける必要がありますが、日本語が分からない外国人も多く生活しています。その人たちには、日本語で書いてある情報では伝わらないため、翻訳や通訳が必要です。しかし、すべての情報が翻訳されているわけではありませぬし、翻訳されていない情報の方がはるかに多いのです。

そこで、日本語の習得が必要となってきました。日本で暮らすためには、日本語が理解できたり話せたりすることで、情報を得ることができ、通訳に頼らず自立した生活を送れることに結びつきます。